

スパイスキューブ株式会社

会社概要

スパイスキューブ株式会社

設立 : 2018年2月

資本金 : 1,000千円

事業内容 : 植物工場の設計請負・運営
人材派遣・野菜生産加工販売

代表者 : 須貝 翼

従業員 : 4名(2023年4月現在)

本社 : 大阪府大阪市西区新町2-11-15-6F

研究所 : 兵庫県宝塚市小林5-9-54

自社農園 : スパイスキューブファーム
大阪府東大阪市東山町6-1

WEBサイト : <https://www.spicecube.biz/>



植物工場とは？

植物工場とは、施設内で植物の生育環境（光、温度、湿度、二酸化炭素濃度、養分、水分等）を制御して栽培を行う施設園芸です。野菜等の植物の計画生産が可能な栽培施設をいいます。

- LED
- 水
- 空調



- ~~▪ 太陽光~~
- ~~▪ 土壌~~
- ~~▪ 四季~~



農業を取り巻く問題点

高齢化社会による農業従事者減少

農業従事者は5年毎に平均約30万人ずつ減少しており、大阪においては農地面積・農業従事者数ともに非常に低い状況が続いております。そのうち70%は65歳以上の高齢者であり、今後は都市機能との調和がとれた農業を目指す必要があります。

令和元年度、平成30年度の都道府県別農業従事者数			
全国に占める割合(単位：%)			
	総人口	農業従事者数	農地面積
全国	100	100	100
大阪	7	0.7	0.3

異常気象による農作物の被害

震災や台風、自然災害の脅威は年々増すばかり。毎年のように予測できない事態が起こり、農作物は甚大な被害を受けています。その都度野菜価格は高騰し、家計に直接影響します。傷ついた野菜は食品ロスへとつながり、異常気象などの原因となる環境問題に配慮した、環境保全型の農業の取り組みが活発になっています。



農業を取り巻く問題点

食糧自給率問題

日本の自給率は現在約66%。都道府県別のデータでは、大阪府は6%しかありません。これはほかの都道府県から農作物を輸送しているということでもあり、都市型農業の普及によって、輸送時のCO₂排出削減の対策とすることもできます。

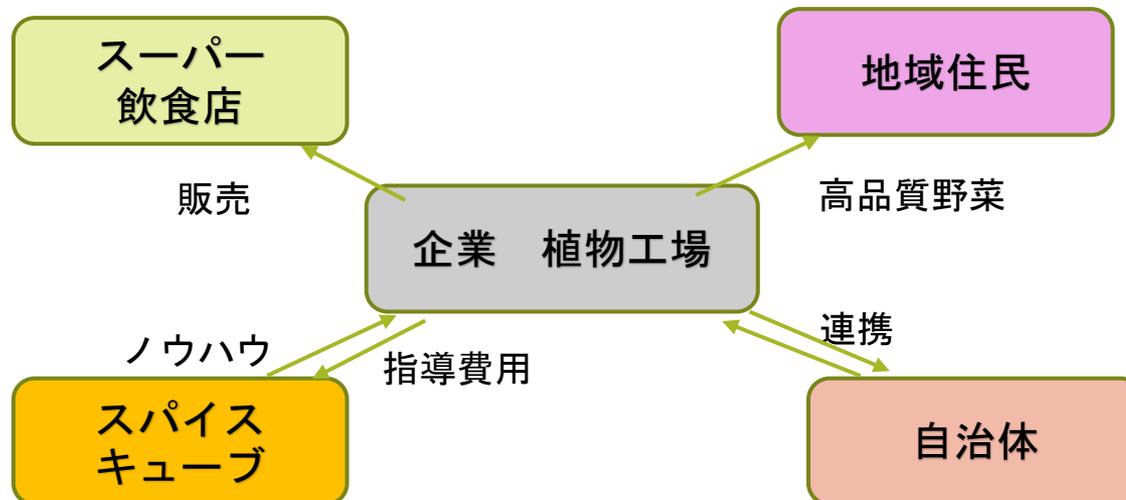
生産額ベース(単位：%)			
	平成30年度	令和元年度	前年度との差
全国	66	66	0
大阪	6	6	0

食品ロス問題

大阪市における令和元年度のごみ処理量は93万トンとなり、ピーク時である平成3年度の217万トンと比較すると、減少しているものの、近年は下げ止まりとなっています。排出されるごみの中に、手つかずのまま捨てられている食品や、食べ残しといった食品ロスが相当量を占めていることから、市民・事業者との連携した取り組みによってごみ処理量削減の余地があります。

企業の農業参入をサポート

- 1 SDGsへの直結事業になる
食料自給率低下の解消、社会的弱者の雇用現実
- 2 自然環境に左右されない農業
野菜の生産計画が叶う為、安定供給と品質追及が同時にできる
- 3 空き工場などの再利用
農地も要らず、どんな場所でも農業ができる



植物工場が貢献する

- ・農地が不要。遊休施設など、どんなところでも生産可能。
- ・自然災害などに左右されず、品質の均一化及び安定生産が可能
- ・害虫リスクがなく、無農薬栽培が可能
- ・品質劣化の原因となる菌数が少なく、洗浄せずに提供でき、長持ちする
- ・生育環境の制御により、栄養や成分のコントロールが可能

これらのような特性から、SDGs（持続可能な開発目標）への取り組みの一環として注目されています。

SDGsへの取り組み・期待される効果

- 二酸化炭素削減でカーボンニュートラル社会実現の動きを加速させる
- 寒冷地や砂漠地帯など、農地に向かない土地でも生産可能
- 室内での簡単な農作業となるため、新たな【福祉の場】となる
- 再生可能エネルギーを活用することで、環境に配慮した農業が可能
- 衛生的な環境下での栽培であり、害虫リスクもなく菌数も少ないことから、鮮度維持期間が長く、廃棄量を減らせるとして食品ロスへの対策となる
- 異常気象などによる農産物の被害・農家の損失を減らす
- 遊休施設の再活用など、都市部での生産が可能となり、輸送コストやエネルギーの節約を実現



スパイスキューブの思い

食糧自給率の低下、年々増加する自然災害による農業被害、農業従事者の減少など、農業に関する課題は山積しております。植物工場・水耕野菜がこれらの課題を解決する手段であると確信しており、農業だけではなく食品ロス問題、都市機能向上、健康寿命改善など、課題解決型のミライ農業として様々な分野と共創することで新たな価値を生み出すことができると考えております。この新しい農業技術を地域・日本・世界に普及させることが私たちの使命でもあります。

